常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅢ
令和　４年 12 月２日(金)
その３　通算 285 号

◇ ドーハの歓喜！　再び!!

サッカーのカタール・ワールドカップは、グループリーグＥ組で日本がスペインに【日本 ２ 対 １西班牙(スペイン)】の逆転勝ち。グループ首位で決勝Ｔ(トーナメント)進出を決めた。

ドイツ戦の歓喜から、コスタリカ戦の不覚を経て、強豪スペインとの戦前は非常に厳しい立場だった日本。スペイン戦での歴史的白星は日本に活力をもたらしたが、それ以上に逆境をもろともせず、大敵に怯(ひるむ)むことなく立ち向かい、しかも結果を出す日本の若武者たちの逞しさに、大きな、大きな勇気をもらった。

大会前、「スペイン・ドイツ・コスタリカ・日本」から成るグループリーグＥ組は、「死の組」とさえ言われていた。強豪が揃う他国との戦いを鑑(かんが)みた場合、日本から見れば、間違いなくそうであろう。ただ、他国、特に「スペイン」や「ドイツ」が、はたして同様の解釈をしていただろうか。
サッカーという競技の技術・体力・戦術・スキル・環境面など、強豪と言われる「スペイン」や「ドイツ」と比べた場合、歴史的な積み重ねを含めても、日本はあらゆる面で後進国である。サッカーが国技的な扱いのコスタリカでさえそうであろう。つまり、スペインやドイツから見れば、日本とコスタリカは格下だ。もしかすると、「死の組」どころか「天国の組」と考えていたかもしれない。

そして戦いを終えてみれば、日本はコスタリカに競り負けたとはいえ、Ｅ組からの決勝トーナメント進出の超有力国「スペイン」と「ドイツ」の両国を見事に倒すというもの。強豪両国のどちらか一つではなく、引き分けを挟むでもなく、両国に勝利したことは、今後に大きくつながる結果となろう。サッカーだけではなく、他競技に、多方面で、日本にプラスに働くのは間違いない。それほど大きな勝利であり、まさに「ドーハの歓喜」と呼ぶにふさわしい。

準々決勝以降は、敗戦＝即(そく)終了。しかも、クロアチア・ブラジルなど、いずれもグループを勝ち抜いてきた強豪国が相手だ。しかし、不思議なことにマイナス的イメージは湧いてこない。これぞ、侍ブルーが日本にもたらした【力】なのだ。

さて、【おまけ】は、今から12年前、当時は、「1994ドーハの悲劇」を乗り越え、「ジョホールバールの歓喜」に沸いた日本。そのことを綴った学級通信。
文が拙く、掲載すること自体に引け目を感じるが、今日、この日、年月を経て同じドーハの地での「歓喜」と考えると、感慨深い。

1年1組　学級通信　はぐるま　【歯車】は　一歯でも欠けたら　回らない

歯車

H 21. 6. 9 (火)
第 67 号

☆ がんばれ !!!!!!! NIPPON

がんばれ　NIPPON。　おめでとう　NIPPON。　祝　2010W杯出場。

1994:　ドーハの…悲劇。
1998:　ジョホールバールの歓喜。
2002:　JAPAN―KOREA　W杯　決勝トーナメント進出。
2006:　ドイツW杯予選　ジーコJAPAN　無観客試合に勝利。
2010:　南アフリカW杯予選　世界最速通過。

'98　'02　'06　'10　NIPPON　サッカーW杯　4大会連続出場。
歴史があるんです。

1994「ドーハの悲劇」。　あなたちは、まだ、生まれていませんね。　W杯アジア最終予選。
試合終盤に中山選手のゴールで2－1と日本リード。　W杯初出場まで、あと、残り数分。
『いける』　そう思ったとき、日本は失点する。　『はいっちゃった……』　そんな感じ。
直後に試合終了。　勝ち点で並んだ韓国に得失点でかわされ、日本はW杯出場を逃す。
中山選手は、膝から崩れ落ち、涙。　三浦カズも、ラモスも、倒れ込んで動けない。
翌朝、同僚の先生も、学級の生徒も、みんな元気がなく、
それぞれの家でTVを見て、日本を応援してたということ。

そして4年後、あなたたちが生まれた頃、日本は、サッカーワールドカップ初出場を果たす。
これが【ジョホールバールの奇跡】。　「ドーハの悲劇」という「軌跡」なくして、この「奇跡」なし。
試合は、スーパーサブからエースに成長した中山選手のゴールで先制するも追いつかれ、
そのあと逆転される。『また、ダメか…』そう思ったところで、城選手の奇跡の同点ゴール。
そして、ゴールデンゴール方式の延長戦。　手に汗を握るというのは、まさにこれを指す。
岡野選手のゴールデンゴールで歓喜の勝利。　執念だ。　そして、やっぱり夜中だった。

2009.6.6　南アフリカW杯最終予選。　ウズベキスタン戦の決勝ゴールは、エースの岡崎選手。

岡崎選手は、ゴン中山選手とプレースタイルが本当によく似ている。
執念のゴール。まさに【*力の限り*】。　十数年前を思い出す。

試合後、岡崎選手のコメント。『ゴンさん(中山選手)と同じ番号を背負っているんで』
当時の中山選手も、今の岡崎も背番号9。　『やっぱり、つながっている』　奇跡は軌跡から。